

1-5 購買力平価

各国で公表される賃金やGDPなどのデータは、普通、それぞれの通貨で集計されています。こうしたデータを国際比較する際には、単位を揃えなければなりません。換算の方法として最も一般的なものは、為替レートをを用いる方法です。けれども、為替レートによる換算は、国内での購買力をみるという観点からは、建築物、保護産品、公共サービスなど貿易の対象にならない商品・サービスの価格を十分に反映しない、投機や国家間の資本移動による影響を受けやすい、という問題があります。

そこで、為替レートとは別の換算レートとして使われるのが、「購買力平価（PPP, Purchasing Power Parity）」です。

【購買力平価とは】

購買力平価とは、ある一定の商品やサービスを購入する際に必要な金額を各国の通貨で調べた後、それらが等しい価値を持つと考えると定められる交換レートのことです。例えば、りんご1個が日本で100円、米国で1ドルならば、購買力平価は1ドル=100円というようになります。こうすることで、各国間の物価水準の違いを取り除き、異なる通貨の購買力を比較できます。なお、購買力平価を為替レートで割った数値が内外価格差です。

購買力平価は、比較的歴史が新しく、1960年代に生まれたものです。新しい換算レートの開発に向け、1968年、国連国際比較プロジェクト（ICP事業、International Comparison Program）が発足し、国際連合統計局とペンシルベニア大学の共同プロジェクトとして検討が続けられました。その後、OECDや世界銀行などいくつかの国際機関で購買力平価が算定されています。

実際に購買力を算定するには、様々な問題があります。価格の調査に膨大な労力と時間が必要なことを除いたとしても、まず、算定の対象にする商品やサービスを決定しなければなりません。同種の商品でも、国によって代表的な銘柄に差があります。さらに、その国の文化によって、重要視される商品・サービスが異なることから、どのようなウェイトを使って平均したらいいのかを簡単に決められません。こうした技術的な問題があるため、購買力平価の算定には唯一完全な推計方法が確立されているわけではなく、いくつかの方法が提案されています。

【OECDのGDP購買力平価】

最も代表的な購買力平価は、OECDによるGDP購買力平価です。これは、GDPに対応すると考えられる商品群を算定の対象として計測したものです。元々は、ECの加盟分担金を算定することを目的に始められ、その後、OECDが独自に作成を行っています。1980年から数値が公表されており、直近の、1999年を基準年とする購買力平価の算定プロジェクトでは、2500余りの商品が比較の対象になっています。

1 経済・経営

最新のものでは、1999基準年の結果をもとに、国際外挿法を用いて更新された2002年の購買力平価が、OECD加盟30か国について算定・公表されています。OECDの購買力平価では、「EKS方式」と呼ばれる算定方法が主に用いられています（表1）。

【ビッグマック購買力平価】

ユニークなものでは、マクドナルドの販売するビッグマックの価格を元に購買力平価を算出する「ビッグマック指数」があります。イギリスの経済専門誌『エコノミスト』によって考案されたものです。ビッグマックはほぼ全世界で同一品質のものが販売されている、原材料費や店舗の光熱費・店員の労働賃金などさまざまな要因を元に単価が決定されるなどにより、総合的な購買力の比較に使いやすかったことが、基準となった主な理由とされています。特定の商品だけを基準にした算定であるため、他の厳密な算定とは比較できませんが、シンプルで明快な算定概念が注目を集めました。ちなみに、このビッグマック購買力平価によると、1ドル=80.6円（2006年）となっています（表2）。

【内閣府の生活費ベース購買力平価】

日本の内閣府も、欧米主要都市と比較した、東京の生計費ベースの購買力平価を算出しています。OECDの購買力平価が「GDPを構成する商品・サービス」を対象に算定しているのに対して、内閣府の購買力平価は、「一世帯の生計を営むために必要な商品・サービス」を対象としています。2000年の生計費調査による比較では、ニューヨーク（410品目）、ロンドン（415品目）、パリ（422品目）、ベルリン（415品目）、ジュネーブ（370品目）及び東京の「小売物価統計調査」をもとに購買力平価を算出しており、結果は表3の通りとなっています。これをみると、東京とニューヨークを比較した場合、1ドル=131円、為替レートでは1ドル=107.8円となっています（2000年）。これは、2国間（2都市間）の比較なので、多国間の比較を目的とするOECD購買力平価と比べて技術的問題が少なく、日本の支出ウェイトで算定したものと、相手国の支出ウェイトで算定したものの幾何平均を購買力平価としています。

【購買力平価による賃金比較】

一般的には、賃金の換算をする場合には、為替レートによる換算は、賃金をコストとして比較する場合に適しており、購買力平価による換算は、賃金を生活水準の観点から比較する場合に適しているとされています。

賃金水準の国際比較が、勤労者の生活水準比較を比較しようとするものであるならば、様々な消費財に対する賃金の購買力での比較が適していると思われます。本書では、製造業の時間当たり賃金について、OECDの購買力平価と為替レートの双方で試算を行っています。これをみると、日本の賃金は、為替レートベースでは高めになっていますが、購買力平価ベースでは、欧米各国に比べまだ低い水準にあるといえます。

表1 Table 1

(2002年/Year)

国・地域 Country or region		GDP購買力平価 PPPs on GDP (USA=1.00)	為替 Exchange rate (US\$=1.00)	内外価格差 Comparative price level (OECD30 = 100)
ドイツ	DEU	0.959	1.063	100
フランス	FRA	0.900	1.063	94
イタリア	ITA	0.825	1.063	86
オランダ	NLD	0.921	1.063	96
ベルギー	BEL	0.883	1.063	92
ルクセンブルク	LUX	0.980	1.063	102
フィンランド	FIN	0.967	1.063	100
オーストリア	AUT	0.912	1.063	95
アイルランド	IRL	1.00	1.063	104
ギリシャ	GRC	0.678	1.063	70
スペイン	ESP	0.743	1.063	77
ポルトガル	PRT	0.658	1.063	68
EURO 12		0.876	1.063	91
イギリス	GBR	0.610	0.6682	101
デンマーク	DNK	8.43	7.895	118
スウェーデン	SWE	9.36	9.734	106
EU 15		0.899	1.063	93
チェコ	CZE	14.2	32.73	48
ポーランド	POL	1.82	4.099	49
ハンガリー	HUN	114	258.2	49
キプロス*	Cyprus	0.438	0.6113	79
エストニア*	Estonia	7.63	16.63	51
ラトビア*	Latvia	0.254	0.6174	46
リトアニア*	Lithuania	1.43	3.676	43
マルタ*	Malta	0.245	0.4345	62
スロバキア*	Slovak Republic	16.2	45.36	39
スロベニア*	Slovenia	144	240.1	66
EU 25		0.863	1.063	90
日本	JPN	143	125.4	126
アメリカ	USA	1.00	1.000	110
カナダ	CAN	1.22	1.569	86
ノルウェー	NOR	9.14	7.978	126
スイス	CHE	1.80	1.559	128
アイスランド	ISL	92.1	91.57	111
トルコ	TUR	611,482	1,529,732	44
韓国	KOR	778	1,251	69
オーストラリア	AUS	1.33	1.841	80
ニュージーランド	NZL	1.46	2.162	75
メキシコ	MEX	6.58	9.656	75
OECD 30		0.906	1.000	100
ロシア	RUS	9.27	31.35	33
ブルガリア	Bulgaria	0.582	2.071	31
クロアチア	Croatia	3.75	7.869	53
旧ユーゴスラビア共和国マケドニア	FYROM	20.0	64.35	34
イスラエル	Israel	3.46	4.738	81
ルーマニア	Romania	9,891	33,226	33

資料出所 OECD "Purchasing Power Parities"(January 2005)

(注) *印の国はEU加盟国であるが、OECDには加盟していない。

1 経済・経営

表2 Table 2

国・地域 Country or region		ビッグマック 価格 (USドル) Big Mac price in dollars	購買力平価 Implied PPPs of the dollar	対ドル評価 (%) Valuation against the dollar, %
日本	JPN	2.23	80.6	-28
アメリカ	USA	3.10	-	-
カナダ	CAN	3.14	1.14	1
イギリス	GBR	3.65	1.60	18
デンマーク	DNK	4.77	8.95	54
スウェーデン	SWE	4.53	10.6	46
ユーロ圏	Euro area	3.77	1.05	22
ロシア	RUS	1.77	15.5	-43
中国	CHN	1.31	3.39	-58
香港	HKG	1.55	3.87	-50
台湾	TWN	2.33	24.2	-25
シンガポール	SGP	2.27	1.16	-27
マレーシア	MYS	1.52	1.77	-51
タイ	THA	1.56	19.4	-50
インドネシア	IDN	1.57	4,710	-49
フィリピン	PHL	1.62	27.4	-48
オーストラリア	AUS	2.44	1.05	-21
ニュージーランド	NZL	2.75	1.44	-11
ブラジル	BRA	2.78	2.06	-10
メキシコ	MEX	2.57	9.35	-17

資料出所 The Economist “The Big Mac index” (May 2006)

表3 Table 3

東京との比較 Comparison with Tokyo	購買力平価 (円/各国通貨) PPPs (yen/national currency)			年平均為替レート (円/各国通貨) Annual average of exchange rates (yen/national currency)			内外価格差 (倍) Gap between domestic and foreign prices (times)		
	1999年 /Year	2000	改善率 (%) Improvement rate	1999	2000	変化分 (%) rates of change	1999	2000	変化分 (%) rates of change
対ニューヨーク to New York	137	131	4.4	113.9	107.8	5.4	1.20	1.22	0.02
対ロンドン to London	206	198	3.9	184.3	163.4	11.4	1.12	1.21	0.09
対パリ to Paris	24.9	24.2	2.8	18.5	15.1	18.2	1.35	1.60	0.25
対ベルリン to Berlin	88.4	86.6	2.0	62.1	50.8	18.2	1.42	1.71	0.29
対ジュネーブ to Geneva	81.1	78.5	3.2	75.8	63.8	15.8	1.07	1.23	0.16

資料出所 内閣府「生計費調査による購買力平価及び内外価格差の概況」(2000)